

■水の文化28号予告

特集「小水力」(仮)

電力買い取り料金の安さから、
小規模発電の普及がなかなか進みません。
小規模自然エネルギーというとき、
太陽光と風力ばかりが話題に上り、
水力が忘れられているような気がします。
持続可能な生活を維持する手段の一つとして、
小水力に着目します。



水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。
ユニークな水の文化学習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。
すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

編集後記

◆人の生活、暮らしと水とのかかわりは、深く大きい。それにかかわる意識に迫るのは容易ではないが、13年も続けると、結果として見えてくるものがある。水をもっと身近に感じてほしい、水を大切に思う心につながればと思う。(新)

◆「水にかかわる生活意識調査」へは毎年、様々な問い合わせがくる。毎年定番の質問もあれば、まったく予想していなかった質問もあり、問い合わせ対応はとても面白い。これからもたくさん質問・感想をお寄せいただきたい。(百)

◆長年実施しているものの総括や振り返りや見直しは、5年とか10年とか、区切りのよい年に行なうのが一般的だ。しかし、13年という中途半端な年数だったが、敢えて振り返ってよかったと思う。来年の調査票づくりや分析にぜひ活かしたい。(ゆ)

◆最近、水ビジネス投資ファンド募集広告を新聞で目にするようになった。こんなこと10年前には考えられなかった。社会的に受容されてきた水利用の論理と倫理は、グローバル化に太刀打ちできるのだろうか(中)

◆唱歌「春の小川」に描かれているのは、私の故郷・東京渋谷区の情景である。もともと私が学校に上がる頃には、春の小川の代わりにネオンの川が流れていた。昔の景色を取り戻す方法はないだろうかネオンの川の中で考えてみよう。(恵)

◆温暖化ストップのために払う金額の平均は約2000円だったが、個人的にはもっと払っていいと思っている。自分のお金が地球規模で役立つというものが直接実感できたら、相当な満足感を得られるだろうと思う。(力)

◆礼節という言葉は道徳臭くて毛嫌いしていたのだが、対人間ではなく、自然に対して礼節を持つことには納得がいく。有り難いなあ、と思う気持ちの高まりが、礼節に代わる新しい価値観を生み出す原動力になる。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第27号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

禁無断転載複写

発行日 2007年(平成19年)10月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

編集制作 秋山道雄 新美敏之 百瀬友美 小林夕夏 辻美代子
中庭光彦 緒方大輔 浅野恵子 賀川一枝 中野公力 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中塾ビル9F
株式会社ミツカングループ本社 社会・文化活動センター内
Tel. 03(3555)2607 Fax. 03(3297)8578

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0043 東京都中央区湊1-13-2 アリス・マナーガーデン11F
Tel. 03(3552)7504 Fax. 03(3552)7506